
あなたに会えて・・・

ナカヌキヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あなたに会えて・・・

【Nコード】

N5113Z

【作者名】

ナカヌキヤ

【あらすじ】

弱虫の女の子…

あたしがあつた少年のおかげで変わることができたんだよ？

あなたはあたしの生きる勇気をくれたんだ…。

出会い

くっ 苦しい……

「さっさとアイツ捕まえろっ」

ぎゃああああっ

怖い…… すっごい怖い先輩が追いかけてくるぅ……！

「早く捕まえろっ！」

こんなことなら見つからなければ良かったよお

ドンッ

「いた〜いつ」

誰かにぶつかっちゃった。

「チッ」

……え？…… ええっ???!

「南波レン……」

「あ？ダレだおめえー……」

ぎゃああああっ………！！！！

本物のナンバ……レン……。

ここで記憶が途切れた……

あたしさっき怖い先輩に見つからなければ南波先輩にも会わなかったのに……

最悪……南波レンに会うなんて……

そう。『南波レン』この人はこの学校で一怖い悪魔……あ、間違えた。学校一怖いお方なのです。

あ、もしかしたら世界一かもしれない……。

……それは……ないかなあ……。
な〜んてね………

ああそういえば、顔はかつこいいと皆に騒がれてた言われてた気がする…。

次に目を覚ましたのが保健室で

「頭が…痛い…」

目の前で悪魔：いや、怖いイケメン様が笑いながら

「だろうな、おめえー階段を頭から転落したぞ」

怖い…怖い先輩方よりも…悪魔の方が怖い…。

「あ…くま？」

「ああ？」

ひええー…

今あたし南波先輩に悪魔言いつた!!!

自分の

「バカやるー…」

南波先輩に一発くらわせてしまった…。

「ああ？んだとお？何様だおめえー…俺様を殴るとはいい度胸じゃねえーか…」

いやあ…

「ごめんなさいい！」

泣きながら南波さんになすりついた。

もうっあたしのバカバカバカあーっ

ってか、まず悪魔の南波先輩になすりついている次点でいけないと思うよっ。うんっ。

「なあ…」

「はい…。…なんでしょうか？南波先輩…」
鼻をすすりながら聞いた。

「俺って怖いのか？」

「え？」

「立花ユカは俺のことどう思うんだ？怖いかな？」

なんで南波先輩はあたしの名前知ってるんだろう？

それよりも『怖いかな？』って、何が言いたいんだろう？

「なあ…ユカは俺が怖いのかな？」

南波先輩は今にも泣きそうに濡れそうな目であたしの方を見つめて
そう言った。

「南波…せんぱい…？」

「…いや？なんでもねえー」

突然コロツつと表情が変わったから逆にびっくりして

「…そうなんですか？」

あたしはそれしか言えなかった。

南波先輩は『ああ』と一言だけ返事を返してきた。

そうしたら今度は楽しそうな顔になって…

先輩って何がしたいのかわかんないなあ。

「あの…？南波先輩…？」

「レン」

「…え？」

「ユカは俺を『レン』と呼べ。いいか？命令だ。」

なんでここで命令なんだ？

そう聞こうと思ったけれど悪魔に勝てる訳がないから

「…レン先輩…？」

言うことを利いてやることにした。

「いや。『レン』だ」

はあ…なんでこの悪魔は命令口調なんだろう…？

なんてことを思ったところでどうにもならないから、

あたしはなんで名前を知っているのかを聞こうと思った。

「あの？レンせん…レン」

「なんだ？ユカ？」

レンがベッド隅に腕を乗せて楽しそうにしかもにこやかに…

それがまるで子猫の様な顔で笑うから…あたしも思わず微笑んだ。

本当は何かを言おうと思ったのに…レンが優しく『ユカ』なんて言うからまた…意識がぶっ飛んだ。

「ああ？ユカ起きたか？」

ガタガタガツタン

びっくりしたっ！！！！

「なんでソファから落ちてんだよ」

笑いながら言われたってえ…あと10センチもあればキスだったよ？

あたし恋人いない暦17ですよ？

キスしたことすらないんだからっ

びっくりするもんだってえ〜の！！

……っつか…ここどこよ？

「あ？どこかかって？」

何も言っていないのになんでわかんのか？？！

「倉庫だ」

倉庫？？！

え？なんか変なことされんの？？！

「…アホかユカは…手なんか出すかっつーの…」

……なんでこんなに思ってる事がわかるの？

「あ？だって俺総長だからな、これぐらいわかんねーとなあ」

「…ん？意味わかんない…」

「そっとうと思っただよ」

その後すぐにレンは

「今度おめえーを特別暴走に連れてってやる」

……なーんて事を言いよった…

その後レン殿に『ソファに座れ』と命令されたので「じゃあ…

…だから、ひとまずソファに座った。

一つ疑問に思ったのがあたしの横にさつきからいるお方…
いつからかはわかんないけど…ずっとクスクス笑ってる…。

「ねえ…レンあたしの隣にいるお方はもしかすると…」

「え？僕かい？僕はね」

「天野ウミ…先輩…ですよね？」

「え？うん。そうだよ？僕、天野ウミ」

ウミ先輩は笑いながら優しく言うてくれたからあたしのテンションが上がって

「…え？本物？？！ねえレンっ！ウミ先輩だつて！！」

なーんて事を高すぎる声で言ったら…レンにすごい鋭い目の玉で睨まれた…。

そしたら、あたしの背筋に一瞬冷たいものが流れた…まあ…汗なんだけどね…

そりゃ…あたしもテンション上がっちゃいますよ？

だって…ウミ先輩は学校でめちゃくちゃモテル…南波レンよりもモテまくる。

正直あたしは遠くからしかウミ先輩を拝んだことがないから近くで見たら惚れるかと思った…。

そんなアホな事を思ってたら、

「ユカちゃん…あんまりレンきゅんを怒らせないでね？」

「え？今レン怒ってるの？」

ジ…っと見つめてたんだけど…

レンは正直顔を見るだけじゃナニを考えているのかがわかんない。
だってレン…喜んだ顔はすごいわかりやすいのに…後は…全然わかんないもん…

あたしは入学そうそう『南波レン』『天野ウミ』の名を知ったけど、
実際話すのなんて今日が初めてだし…

しかも、多分この二人はあたしの存在に今さつき知ったと思うんだ
よね…？

「ユカ」

「ん？なにレン？」

「お前って何でさつき逃げてたんだ？」

… ああ… まさか… 今聞かれるとは…

その事を考えてただけで吐き気がしたから考えるのを止めた…。

そのせいで沈黙が続いた…。

でも、そのことに気がついてくれたのかレンは

『おめえーが言いたくなかったときに言え』って頭を撫でながら優しく言ってくれた。

その事がうれしくて自然と涙が流れた…

バンツ

倉庫の扉が大きな音を立て開いた…。そして…またソファから転落した。

「うわっ！だつさあ〜」

あたしの目の前で『クスクス』と笑う同じ制服を着た美人が見下ろしてきた。

レンもウミ先輩も黙って美人さんを見てる…。

「レンツ！」

次の瞬間…美人さんはレンに抱きついた。…でも、レンは嫌がりはしなかった。

何時間もあたしとウミ先輩の前でベタベタしてる…。

…なんか、こう、イライラするっ！！！！

顔には出さないように気を付けてるんだけどね？

彼氏いない暦17年のあたしは目の前の光景が腹立たしかったっ！

…ってか、この美人さん…臭い…香水の匂いがキツイ臭すぎる…だから、あたしはつい…

「臭すぎるっ〜…」

…つて、言っちゃった…。

「あ？臭いって…」

そう口にしたのはレンだった。

また隣でウミさんが『クスクス』笑い出した。

そしたら…

「ああ〜ひどいレンひどすぎるっ！」

香水女はいきなり大声で叫んだ。

あたしはなんの事だかわかんないから『ナニが？』って何回も質問してみた。

でも、その後レンもウミ先輩も一言も話さなかった。

そんな空気が（臭いのも）嫌いなあたしは嘔吐しそうになりまくった…

…そして…耐え切れなくなったあたしが

「…おえっ」

つて、声だか音だかわかんないものに反応したのはウミ先輩だった。

「ええ？！ユカちゃん…どうしたの？大丈夫？」

ウミ先輩の声にホッとしてゲロりんした…。

香水女は

「うわっ！きたなっ！！」

なんてことを言いよつたから、あたしは先輩だかなんだか知らない香水女にフラフラになりながら

「ダレのせいでゲロりんしたと思ってんだ??！」

精一杯言っっちゃったっ！

「はあ？あたしが悪いって言うの??？」

「うん。そう。」

ついつい即答で答えちゃった…ああ…また言っちゃったよ？

もう、おしまいだ…あたしの高校生活が終わった…。

先輩かもタメなのかもわかんない…。

それでも、高校生活が終わった気がした。

ひええーーーーーーーッ

香水女の腕が上がった…あたしつぶたれるっ！！！！

パチンッ

あれ…痛くない…？

あたしの前でレンがビンタされてた。

「え？レンッ??！」

あたしも香水女も同時に声を出したら…香水女に睨まれた。

ムカついたあたしは、シカトした。

だって、あたし悪いことしてないもん…（なんかを言っちゃった気もするけど？まあ気にしない）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5113z/>

あなたに会えて・・・

2011年12月17日11時51分発行